東大文学部 3 年生です。
民間試験導入には絶対に反対です。
それで英語の実力が正しく測定できないこと、そして政治家の利権の道具になっていること、決定プロセスがブラックボックスであり問題だらけであることはもちろんですが、まだもう一つあります。

受験料です。私の家の経済状況は裕福とは言えず、小中高大と公立、塾に通う余裕はなく、現在も授業料免除と奨学金を受給しながら大学に通っています。地方出身です。
ただでさえ、経済的に裕福な家庭かつ首都圏出身者が多くなっている東大で、民間試験を導入すれば、東大受験はもはやマネーゲームと化してしまいます(現在すでにマネーゲームの感がありますが)。我が国で最難関の国公立最高学府として、あってはならない姿です。
多様性を失うことは東大にとって不利益であるのみならず、日本という国家にとっても衰退をもたらすとしか思えません。何より、仮にも国立大学で、経済状況によって受験を断念せざるを得ない人がこれ以上生まれてしまうような状況があってはなりません。

署名運動の暁には、必ず署名いたします。
そしてこの運動を起こしてくださって本当にありがとうございます。おかしいことにおかしいと声を挙げることが難しくなっている近年であるだけに、本当にありがたいことです。
全力で応援しております。

一学生

すでに多くの皆様から民間試験導入のデメリットとリスクが届いていますが、「受験会場問題」についても大きく取り上げていただけると幸いです。

民間試験全面実施に関する最大のネックは、50万人を同日に収容、受験をさせるための会場、及び運営人員の確保です。

これについて、ベネッセなどは明らかに「高校校舎を会場として借りてGTECを実施し、同校の教員は直接試験監督にはつかないものの、事務作業や会場準備、設営などの運営業務を担う」ことを想定しています。（もしくは、他校に出向いて自分が教えていない生徒の監督）

これについても大変な問題と認識してきます。自分が普段通っている高校で大学入試とも言える民間試験を受けること自体理に合わないのですが、こ

のことは不正、不祥事、不適切運営の温床となることは避けられません。また、年に何回も校舎が民間試験で使われるということは、準備から片付けまで大変な手間(しかも厳正実施のために時間のかかる煩雑なプロセスが増える)がかかり、平素の教育活動の多大な妨げとなります。

　あわせて、運営に携わる同校の教職員に時間外勤務、休日出勤を当然強いることに繋がり(しかも、大変な緊張感の下での業務)ます。教職員は疲弊し、メンタルヘルスの悪化も深刻なものとなり、学校を崩壊に導いてしまいます。

　ベネッセ等の暴走に歯止めをかける意味でもこの会場問題についても取り上げていただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

（下線は引用者）

私自身、英語教員ではなく、いちサラリーマンですが、民間英語試験の入試への導入に強く憤りを感じています。
学校教員の負担、何よりも生徒の負担を憂慮しています。

私自身、向学心旺盛な学生が英語の勉強に邁進することは良いことだと思ってますが、そうした生徒を対象に限定的に、民間英語試験の結果を入試で加算するぐらいでいいのでは、と思います。
恐らく、大学生になって海外留学する学生はそれぐらい向学心のある人でしょう。

しかし、今回の決定は、英語をビジネスとする輩によって決められたため、全員に課すというとんでもないことになってしまいました。

何とか、英語教育をマトモに戻してほしいと強く願います。ちなみに、私は高校でオーラルコミュニケーションが導入された 1 期生ですが、あれから 20 年以上、英語ができるように日本はなってません。
どうしても、日本人を海外で通じる人材にするなら、香港やシンガポールのような超シビアな競争社会でエリート教育しかないです。

この度の突然の東大方針転換には、タイミング的に安河内など東進一派が大きく関与していたのではないかと推理します。
安河内の新刊本が 4/27、大西泰斗が 4/25 発売。
安河内は知りませんが、大西は紀伊国屋書店で 5 月 10 日に刊行記念の特別講義とサイン会イベントを控えていましたから、東大を攻め落とすことは、彼奴等にとって喫緊のミッションであったと思います。
私には受験生の子供もおりませんが、一部の人間の金儲けのために、しかも怪しい英語力でもって、日本の教育をめちゃくちゃにされるのは我慢なりません。
英語の神様がいるなら、彼等にはきっと味方しないはずです。

私は紆余曲折を経て、通信制高校を1年次で休学し、その後すぐ高卒認定を取得した17歳、要するに現役の受験生です。学年的には高3になります。また、大学受験も通常の学齢と同じく、来年のセンター試験を受験します。

私は今まで5年間 ホームスクーリング中心で生活をしてきましたが、とりわけ英語は大の得意科目でありましたし、TESOL の修士号を持つカナダ人の先生や、同じ資格を持ち、アメリカで30年間社会人生活を送ってきたおじいちゃんに教わったりして、色々と恵まれた環境にありました。

他方、今はその経験が全く活きていない、ということはありませんが、受験英語として、ネクステ等をはじめとした文法対策、英文解釈などを中心に、体系的に勉強しています。

○ 上記の環境の変化による、英語教育に関する私見

こうした中で 確かに英語の基礎力は アップしましたし、大学受験の勉強おろか中学レベル以前に フォニックスを徹底的に叩き込

まれたものですから、発音や弱形強形も意識しながら発音することができます。

ただ、はっきり言えるのは、「SVOC は 受験英語。コミュニケーションには無意味だ」という点には大反対です。徹底的に多読で鍛えられた私ですが、体系的な理解なくしては絶対に英文を読むことができないし、ましてや定着しないということを実感しています。

今現在は王道の桐原書店の英文解釈の技術という教材をやっていますが、これをやっただけでセンター試験が中3から120点台をふらついていたのが、一気に180点まで上がりました。過去問を解いていてもひとつひとつの問題が確実に読めていることを実感しました。

○ その他の私見

大学はあくまで、「アカデミックな英語」を身につけた上で大学に来て欲しいということを願っていることと思います。東大の入試がまさにそれを表しているのかと思います。

それと「コミュニケーションに使う英語」を区別することは悪いわけではないですが、日本語であっても、ヤンキーが使う日本語とテレビのコメンテーターが使う日本語が違うのは明白です。

また、大学入試改革の根幹・そして今まで何十年もの間中高6年間の英語教育があっても英語が話せるようにならなかった根本的な原因は、「一斉提出型の高校の課題システム」と「定期考査」にあると思っています。

私は定期考査もなく、ただただ受験中心の勉強を送っていますが、非常に効率的ですし、英語も以前に増して話せるようになっています（話す訓練は今のところとくにしていません）。

高校の学習を変化させたいから、という意味合いでの高大接続改革の一部だったわけですが、そもそも、変えなきゃいけないのは大学ではなく、高校「だけ」とも言えたのではないかと思います。

（下線引用者）

一橋大学の学生です。地方出身者ですが、東京に来て地方と都市圏との情報格差や環境の格差に驚いています。民間企業委託がなされば、対策その他の面でこの格差が深刻に影響していくと思います。

入学試験をどの科目にしても民間企業に委託するというのには絶対に反対です。公正性は担保されず、結果に対しても信頼することはできません。何より大学入試という、それからの人生の分岐点となるようなものを利潤追求を目的としている団体である企業に委託するようなこと自体、狂気の沙汰だと思います。

現役の教員です。
JACET のシンポジウムで英検の方が来るようですし、英検を利用したい生徒が多いようなので、ここでは主に英検についての疑問・懸念についてです。

一番の疑問は②です。四技能反対派ではありませんが、現状では授業で「入試対策」として取り入れると、文法・語彙・読解力の低下は避けられません。プライオリティが考慮されないまま、現場に丸投げされたと感じています。

また、英検の面接委員の採用は⑤のようになっていたと思うのですが（英検側に確認していませんが）そうであれば　多くの問題が懸念されます。

以下に疑問と懸念をまとめました。

①英検会場の確保について。高３の英語力の伸びを考えると、同時期に受検者が殺到することは自明であるように思う。また、地方の受検者が不利にならないように会場を確保できる見通しなのか。英検側での対策を具体的に考えているか。

②大学は研究機関であることを踏まえ、現行のセンター試験利用と比べた際にどんなメリットが期待されるのか。特にスピーキングについて。「恋人と森にドライブに出かけたら花粉症が原因で泣き出してしまって当惑した話」を英語で説明することが「高大接続」の上でどのように役立つと考えているのか。

③試験対策について。英検の面接試験は一人ずつ行わなければならず　、教育産業の利用可否、学校の規模と教員数、教員の資質に大きく左右される可能性が高い。

④面接委員の確保について。受検者の激増は目に見えている。現行の制度では（確か⑤下線の制度のはず）突然増やすことは困難だと思われる。急に増やした場合、面接委員の資質のバラつきは避けられないと思う。その際の対策はどうするのか。

⑤情報漏洩対策について。教員（現役／教職経験のある）面接委員を使う予定でいるのか。使わないとしても、面接委員（経験者）と接点がある場合、その学校／生徒が有利になるように思う。面接委員の紹介によって新たに面接委員をしてもらう制度では、情報漏洩リスク

は相当高いように思う。急に面接委員の人数を増やした場合は尚更である。

以下　は国に対しての疑問です。
低所得世帯への対応について。センター試験だけでも、受検料はかなりの負担になってきた。これ以上は困難な世帯がますます増えるのではないか。こういった学生の進路について調査・考慮しているか。例）やっとの思いで国立に出願しても、失敗すれば浪人は不可、授業料免除の大学へ進学するしか事実上選択肢はない。このような不本意な状況が更に増えることを良しとするのか。

入試対策としてではない、バランスの取れた四技能習得を授業で行う方法は開発途上であり、現状で大学入試の合否に使うのは、あまりに拙速と言わざとるを得ない。

小学校英語の移行もまだ行われていない状況では、今後どういった課題が出てきて、どう対処するのかを、時をかけて じっくり検証していく必要があるのではないか。

小学校に関しては、予算もつけないうちから実施だけを決めてしまい、誰が教えるのか、どれだけの時間を割けるのかも学校によってバラバラになるだろう。

なぜ、小学校の改革が始まるのと時を同じくして、大学入試の変更がなされる必要性・必然性があるのか全く理解できない。
小学校の改革の動向を注視しながら、大学入試で必要になるのか、なるとすればどういった試験が好ましいのかを考えていくべきではないかと思う。
（下線、原著者）

英検の準会場での組織ぐるみの不正が許せません！

ある私立高校(準会場)では推薦合格の実績を作るため自校の生徒を英検に合格「させて」います。1次試験では直前に出題される問題を解かせて合格させ、2次面接ではあろうことか普段生徒を指導している担当教師が面接官をするというとんでもないシステムになっていると聞きました。

合否に関わる大切なテストは公正でなければなりません。4技能が云々ではなくそれ以前の問題です。断固として民間試験には反対です

英検面接試験の情報漏洩リスクについてです。相当深刻なのではないかと思いました。

①生徒から生徒への漏洩

従来型の面接試験（対面式）のカードはたったの二種類です。カードを持ち帰れなくても「大体こういう内容だった」ことは、LINE などで簡単に共有されるのでは？

録音式は焦るので、対面式よりは記憶が曖昧になるかもしれませんが、いずれにせよ危険であることに変わりはないと思います。大学入試は資格取得よりもずっと重い意味合いを持っています。受験生が互いに助け合うことは容易に想像できます。

面接カードの種類を大幅に増やし、試験時間を細かく区切って頻繁にカードを入れ替える、試験開始後 30 分経過したカードは使用しない、面接は乱数にして申し込み順としないなど、徹底的な情報漏洩対策をする必要が出てくると

思います。

学校を分けて受検させるだけでは不十分です。今の生徒は塾などで色々な人と繋がっています。これに伴い、難易度が同じになるように、より厳密にカードの内容を精査する必要が出ます。

また、あらゆる試験に対応できる面接委員を確保しなければならず、大変なコストになるでしょう。

②教員から生徒への漏洩

英検は、多くの英語科教員が運営に協力しています。本校も英語科教員が「毎回」協力しています。現役教員はもちろん、教職経験者も 運営に関わるべきではないと思います。しかし、そうすると人手不足はほぼ確実です。バイト代は雀の涙になるでしょうから。(ちなみに、現在のIELTSは時給 1000 円です)これらをカバーしようとすれば、当然受検料は高額にならざるを得ません。

ここまでして、一体何がしたいのでしょうか。文科省には説明責任を果たしてほしいです。英検に限らず、GTEC 等、学校に依存した試験は漏洩リスクが非常に高いと思います。国大協もその点をどうお考えなのでしょうか。「合否に使ってしまってから、民間試験で多くの不正が発覚」。十分あり得ることです。

大学は、少なくとも延期を強く求めるべきです。移行期間は短すぎます。運営団体(と、勝手に協力を依頼される学校

関係者)も現時点では、どこまで計算できるかわからないのではないでしょうか。(英検は特に、色々な点で信用失墜のリスクを負わされていると思います)

2020 年を大混乱の年にしないために、大学が取るべき対応は火を見るよりも明らかです。毅然とした態度で臨んでほしいと切に願います。

英語教育に携わっている者です。大学入試英語の「民間試験導入」について、私は以下の点から「最低最悪の愚策」考えております。

・大学での「実用英語」は専門的文献を読み、かつ表現するスキルであり、日常会話やビジネスのための英語ではない。

・読解力、表現力、そして会話スキルには「基幹的な文法と語彙の理解」が必要不可欠。基礎が固まっていない英語は無益どころか有害。

・入試改革（改悪）の結果、高校の授業が「民間試験のためのテクニックに特化した授業」となり、結果「中身がないもの」となる。そもそも大学入試以外の道を考えている高校生もいるのに、そうした点が全く考慮されていない。（下線、引用者）

民間試験の考査への利用のニュースを拝見していました。同じ内容を文科省の窓口にもメールしましたが、一応こちらにもお送りさせていただきます。

今回の民間試験導入には、いくつかの点から反対しています。家族が教育機関に勤めており、私も外国語関連の仕事ですが、みな同じ意見です。

まず、民間試験では、年に複数回の実施が当たり前であり、性質上、現行の試験と同程度の精密な出題や採点調整は困難と考えられます。知人が民間試験の採点者をしていたのですが、あまりに人によって基準が違いすぎるとよく嘆いていました。

作問者も国立大学法人の教授ではありません。出題者の資格や実力も不明瞭なものであり、当然ながら大学の教授陣と同じ理解や方針、学力があるかどうかは大いに疑問です。

実施団体や機関が増えれば漏えいの危険も発生し、イギリスでは、あまりに不正が横行したため、もはや就労資格の一つとしては認められなくなった例もあります。

またこれまでのやり方では、大きな問題が発生していない、かつ民間試験に、明白な「メリット」というものはないのにもかかわらず、あえて実施する当事者を変える必然性が学内には存在しないことです。

以上の点から私は大学の入学考査への民間試験の導入に反対しています。

数年前、楽天が英語を社内公用語にすると発表した少し前から、中堅企業で人材育成の仕事をしております。

楽天ブームはすさまじく、当時は専門誌にひっぱりだこで、TOEIC 主催のセミナーにも頻繁に人事の方が登壇されていました。多くの企業が、憧れのまなざしを送っていました。

人事の方によると、定期的に社内試験をおこない、未達の社員は降格にし、点数アップのための部署がお尻を叩き続けるということでした。別の機会にお話を聞く機会があった、降格させられたご本人は、体調不良で通院なさっていました。

英語の専門的なことはわからないのですが、楽天が自社社員を使って入念にデータを収集し、TOEIC 主催者と連携しプロセスを公開することでブランディングにつなげて利を得、TOEIC の点数を上げたという結果をこの民間試験導入のタイミングで国に提示して、さらにお金を儲けると考えると恐ろしいです。ビジネスありきで、個々人への教育の展望がありません。大手企業が TOEIC と連携して得た実証データは、内容はどうであれ、それだけで説得力があり、お役人は納得してしまうと思います。

充分な時間をかけ、ビジネスよりも教育的な視点で、建設的な議論がなされることを望みます。（下線、引用者）

民間試験には疑問点ばかりです。到底、賛成できるものではありません。私は、38 年間、公立高校で英語教員をやり１年前に退職したものです。私は、理想としては４技能をなるべく並行して伸ばしたほうがいいとは思いますが（実際には今の学校の体制では無理だと思います）今回の民間４技能試験には賛成できません。

CEFR の問題。

各民間試験を CEFR で換算してということですが、その換算表は、各民間試験業者が独自に検討して提出したものをそのまま認めているということで、全く、客観的な評価は入っていません。性格、目的の違う試験を比較することは非常に困難であることは事実であり、困難だからこそ、慎重な検討が必要で、到底、英語教育関係者が納得できるものには、なっていません。長年英語教育に携わってきたものとしては、あるものは B1 が取りやすいのではないかというような感想を

持っています。そのような疑念が多くの英語教育関係者にはあると思います。

運営の問題

20 年度末の入試用といっても、練習を含めて、来年には、希望者全員が高校 1、２年生最低１回、そして、2 年後には、高校 3 年最低２回、１，２年１回ずつくらいの受験が＜もれなく＞できる仕組みが必要です。また、スピーキングの試験は、40 人くらいを一つの教室でタブレットでやるのでしょうか。ある試験を学校でやらせたことがありましたが、操作を早くやって、１人で解答を始める生徒、アプリ、タブレットの調子が悪くなる生徒などいろいろ出ていました。そのような場合はどうなるのか、また、果たして、数十人が、一斉に解答することは、厳正な試験になりうるのかなど、疑問はつきません。

得点の問題

CEFR は 6 段階ですが、ほぼ生徒は A2 付近に集中、学校によって低めの学力の受験生が多い学校で A1-2, 高めの学校で A2-B1 の 2 段階の分布にしかならないと思われます。現行の指導では、高校卒業でＢ１程度ということになっているので、当然です。指導要領を変えて、また小学校から英語を入れても、急にＢ２の生徒が増えるとは到底、思われません。ほぼ、2 段階にしかならないのにどうやって、それを他の試験と合算して合否を決められるのか、私には全く想像ができません。

民間試験の採点者の問題

普通の入学試験なら、採点はコンピュータもしくは各大学の先生方です。民間試験の採点者、スピーキング、ライティングの採点はどのような方々でしょうか。信頼できる方と言われても、それをそのまま信じてもいいのか、研修体制、果たしてどこの国の方で、どのようなバックグラウンドなのかもわかりません。ある民間試験は外国の方です。

以上の理由で、私は民間４技能試験を 20 年度から導入するのには、反対です。
東大の先生方には、ぜひ、その優れた専門性で、がんばっていただき、東大では不採用にして、世の中の方々にこの政策が間違っていることを知らしめていただきたく存じます。
（下線等、引用者）

最近，少し意見が変わった。

東大内部の意思決定方法のまずさは確かにまずいので東大内部で解決すべき話。その一方で，一般の人にも意見を募りそういった意見も踏まえて民間試験導入の賛否の議論をするならば・・・

現行のセンター試験や東大など主要大学の個別試験が「本当に」適切な能力測定と選抜を出来ているのか，また，各大学の入学後のカリキュラムによって「本当に」英語運用能力が向上しているのか，分析・考察・判断するための情報・データを公開して欲しい。

民間試験のデータとその分析結果から民間試験を選抜方法にするのはまずいというのは確かにそうなのだろうと思う。

しかし，比較対象である現行の試験に関しては一般へ

の情報・データがほぼ非公開で，それゆえに客観的・批判的な分析がなされず，これまでに見慣れてきたことから生まれる惰性が多分に含まれている，感覚的・雰囲気的な，いわば「感想」だけで，現行の試験の方が「本当に」民間試験よりもよいとは言いきれないのでは？それこそ「フェア」ではない。
従って判断保留と言わざるを得ない。

情報・データを実際に分析することで実は感覚的に持っているほど現行の試験は上手くいってなくてむしろ民間試験の方が効果的，という結果が出るかもしれない。

感覚通りに，現行の試験が効果的ならばより強力な証拠となりうる。具体的には以下の情報・データを公開して欲しい。

※なお，他にも必要な情報・データがあるかもしれな

いが思いついたものを思いついたまま列挙している。

※また，文言が不適切なところや内容のわかりにくいところはすり合わせして調整できれば。

・出題趣旨
・設問内容と技能の対応付け
・技能の重みづけの妥当性
・設問内容・出題形式・解答方法・点数配分の妥当性
・採点基準および採点作業中での調整方法や内容の妥当性
・解答例と設問毎の思考過程，思考過程に対して英語のどういう側面が寄与していると想定していたか
・試験結果(点数や記述内容)と学生の実際の能力水準の乖離度
・大学のカリキュラムを通した入学後の能力向上の推移

新テスト、英語民間試験導入の初の受験生となる現高1の保護者です。民間試験導入に反対です。

1. 英語技能のうち、speaking は独学が極めて困難です。場数を踏むことが有利ですが、全国の受験生一律にそれを課すには、経済的格差も含めて環境の差があまりにも大きすぎます。努力次第で自力で到達できる範囲を超えた試験を国立大学が課す非常識を認識していただきたいです。

2. 仮に speaking の技能が全体的に向上したとしても、AI 自動翻訳で可能な範囲のレベルでしかないといわれているようです。相対的にアカデミックな英語を読む技能が低下することになったら本末転倒です。

3. 大学は、「ここまで読めるように（聞けるように）なっていたら、あとは大学で speaking を勉強する機会を

設けてあげるよ」という明確なメッセージを入試にこめてほしいです。子供たちには、文法知識や読解力が将来の speaking も含めた英語習得の確かな基礎となるという勉強をさせたい。あとは必要に応じて大学で勉強すればよいです。英語に限らず、本来入試の役割は、そういうもののはずです。一般に高校生は勉強・部活・行事と非常に忙しいです。一般には大学生のほうが時間に余裕があります。

国立大学が何もかも大学入試にぶち込んで、「受験生が労力とお金をかけて勝手に努力して来い」というのは、大学側の怠慢に思えます。大学は、入試に手をつける前に大学生の英語力を伸ばす努力をすべきだと思います。

4. 高3の一年間の民間試験が有効ということは、英語はほかの教科に先立って学校の先をいく勉強をし、対策をとらねばなりません。他の教科にまわすべき

時間もとられていくことを心配しています。高3の春から小刻みに「小さい入試」が始まるのは負担が大きすぎます。高校は大学受験のためにあるのではありません。

5. 受験生の親としては、現実的に考えるとそろそろ民間試験を受け始めたほうがいいのかしらと思う反面、事業者の思うツボになるのは悔しい、部活や行事、またその他の科目の勉強もあるなかで、間違った英語政策に翻弄された高校生活を送ってほしくないという思いもあり、非常に悩ましいです。実際、数ある民間試験のうち何を受けるべきかもわかりません。

その他、ベネッセの classi というサービスはすでに全国の高校の 40％が利用しているそうです。学校の成績、ベネッセのテストなどが一元管理できて、学校、生徒、保護者がアクセスできるというものです。サービスは便利かもしれませんが、高校生の勉強の多く

のデータをベネッセが管理していて、そこに英語の民間試験、その対策のためのテストや講座も入り込み、学校がベネッセ傘下におかれてしまうような未来が想像できます。

対象の子供たちはすでに高校生となりました。
他科目の新テスト（二次試験もあるのに一次試験に記述を入れる意味がわかりません。自己採点どうするのだろう？）も含めて、この混乱ぶりに不安も怒りも感じます。四技能試験（＝民間試験）に賛成の保護者が多いのも、知識も問題意識もないまま軽い気持ちでの回答であるからです。これを世論というにはあまりにも安直だと考えます。
東大には圧力に負けずがんばっていただきたいです。

現高1保護者
（下線、引用者）

私自身、英語は研究すればするほど奥深く、また難しさを痛感するものでもあるということを実感する日々を過ごしています。

そんな中で囁かれた文科省の大学入試外部委託、それに伴うスピーキングテストの導入は、混乱を招くばかりでなく、英語という言語をかなり軽視されてるような感覚に陥り、私としては非常に怒りに似た感情を覚えます。

中学高校の 6 年間で、文法訳読を軽視しスピーキング実践あるのみという考え方、ただショックの一言です。一人の研究者としては、英語ほど解析が困難で、かつ面白さをもったものには出会ったことがありません（私の人生経験での話ですが）。で

すので、それを粗末に扱われるのは許せません。

　もちろん、スピーキングが大事であるのは言うまでもありません。ですが、それ一辺倒では困ります。研究者だから分かりますが、中身の伴わない形式的な議論や会話はそれこそ世界で通用しません。やはり、言語そのものを見ていく従来のやり方も大切です。バランスが大事であることを忘れて欲しくないものです。

　また一人の教育者として、子供たちに辻褄合わせのような教育は出来ません。やるのであれば、きちんとした検証を行い、常に中立的な立場から考える必要があるのはいうまでもありません。

　学校は塾ではありません。子供たちに知的財産を残すことが使命の一つです。民間試験の対策に命を注ぐのは教員ではありません。子供たちの根幹をなす揺るがない能力・知識・思考・精神を育むのが教員です。

　どうか生徒たちが目先のことだけに奔走する思春期を過ごすことの無いように、教育のあり方を考えていただきたいです。特に、彼らの人生を左右することになるかもしれない大学入試に私情や私利私欲を極力持ち込まない議論をただ願うばかりです。

英語の民間試験には反対です。
僕は先月高校に入学した者です。僕が受験生の際の年度が、大学入試改革の初年度です。そのため、どのように変わるのかというのをの調べていたのですが、やはり不透明な部分が多いように感じられました。

英検、TOEIC、TOEFL など、民間試験ごとに目的は変わりますし、国際基準を採点において用いるにしても、科学的根拠が薄い上、段階別評価では採点もしにくいとの意見には納得させられるばかりです。

民間試験以外にも、記述問題や調査書の活用など、様々な変更がありますが、本当に上手くいくのか、公平性の担保はあるのか、採点上での問題点はどう解決するのか、どのように変わるのか、対策のためにどういった勉強をしていけば良いのか、不透明過ぎて先行きが不安になります。

文科省は何をしたいのでしょうか。僕の家庭は決して裕福ではなく、一斉受験による費用の高騰なども含め、全学生共通ですることが安牌なようには全く思えません。

本当に英語を話す力が大学で必要でしょうか。それは企業を中心とした社会人になる際求められる力でしょう。問題なのは日本の大学のレジャーランド化ではないのでしょうか。その際の単位認定に留学等を含む事を義務付けて、保護者の所得に応じて費用を援助する。このように入学後どうするかの方が大切だと思います。

そもそも国際化＝英語！なのは何故でしょう？言語で言えば、中国語やスペイン語なんかも人口は多いでしょうし…。それよりも、一般教養や母国語である日本語の勉強こそ優先すべきではないでしょうか。

日本人は英会話がただでさえ苦手という意識から、会話以上に大学での勉学で大事になるであろう英文読解が疎かになるのではないでしょうか。

僕の住む県は高校受験の際、内申点(しかも実技教科のもの)の比率が高く、それが一因となって第一志望の高校を諦め、ワンランク下の高校の英語科みたいなコースに進学しました。そこで驚いたのが、そのコースでは英語会話の授業があるのですが、英検の面接対策が主な内容でかなり落胆しました。もうすぐ GTEC も受けさせられます。(本当に癒着まみれに見えて気持ち悪いです)

どうせ人物評価、英語技能の評価中心にしたところで、格差が広がるだけでしょう。採点者、面接官の確保もうまくいくようには思えません。改革が延期に、いや、もっと欲を言えば頓挫して欲しいです。

先程述べたように、僕は高校受験で妥協しました。内申点といっても、僕の努力不足も勿論あります。どうしても、大学受験で挽回したいという思いがあります。

このような思いを抱えている人間は、僕以外にも一定数いると思います。自分で言うのも何ですが、その熱意こそ改革で叫ばれる、真の主体性と呼べるものではないでしょうか。それをコミュ力だとか多様性なんていう実態のないキーワードに潰されると思うと虫酸が走ります。

もう初年度の学生は入学してしまいました。東大を始め各国公立大学には慎重な審査をしてもらいたいものです。まだまだ言いたいことは沢山あります。まとまりのない文章になってしまいましたが、意見の1つとして取り入れていただければ幸いです。（下線引用者）

絶対に反対です。
英語だけ民間試験の導入は入試全体から考えたら、おかしいです。
では、国語、数学、理科、社会、他の外国語科目はどうなりますか。
英語に民間試験を導入するならば、他教科、他科目も導入するべきです。
そうしないと不公平です。
学校教育で実施されている定期試験から最も大きな共通テストまで、試験を実施し、順列を決める場合、一番の基本となるものは公平性です。
今回の民間試験導入は、入試全体から考えたら、他教科・他科目の民間試験導入がない以上、とても不公平だと思います。英語だけあるのはおかしいです。
だから、今回の英語民間試験導入については、反対です。

民間試験に大反対です。

試験の内容や決定プロセスの不自然さ、CEFR のズレはもちろんのこと、楽天の英語事業参入や、学校の授業に介入してくるというニュースにはもう怒りがおさまりません。教育を自分のお金のために利用していることが、本当に許せません。

こういった日々のニュースにストレスを感じ、民間試験を止めたいと思っているのですが、一現場の教員なんかでは何もできず、歯がゆい日々を送っています。

また、都立高校の教員研修や教育研究のテーマも、スピーキングに関するものばかりで、現場の先生方の間で四技能の看板を盾にした無意味な取り組みが広がっています。現場の教員までもが四技能病を患っています。

最近の英語の先生は、言語習得の知識はあまりなく、ただ流暢に英語を話せる先生が多く、どうしたら生徒の英語力が高まるのか、長期的に見て理解しようとする先生が少なくなっています。

よって、残念ながら、現場の先生までもが、民間試験に賛成している実態があります。さらに都立高校は今後高校入試でもスピーキングを導入します。もうこの流れは止められないのでしょうか。

私は、生徒が英語を学ぶ必然性が将来出てきたときに、再現できるような素材を提供していくことが公教育の役割だと思います。たかだか 50 分の授業を週 4 回程度実施したところで話せるようにはなれません。阿部先生や羽藤先生の取り組み、影ながら応援しています。

国の圧力に負けないでください！
東京大学は民間試験を合否判定に利用しないと、また宣言してください！
教育は生徒のためにあるべきもので、誰かの利権のためにあるものではないと思います。
今後の取り組みに期待しています。

民間試験導入には反対です。

どの試験を選んだか、という本人の実力とは関係のない要因で結果が左右されるのは道理に合わないと思います。得点調整のようなシステムも、完全には調整しえないことは、センター試験の理科基礎科目を見れば明らかであり、東大入試において重要度が理科基礎とは比べ物にならない英語において、そのような懸念を抱えたまま導入することには賛成できません。

そもそも、現行の問題は（少なくとも私が合格した年度までのものは）、四技能のうち、「読む」「書く」「聞く」の三つを高いレベルで試すよく練られた試験であり、私にはあえて変更することによるの利点が思いつきません。

「話す」能力は書くことと聞くことが出来れば、外国語の能力としては、ある程度は担保されるものだと思いますし、「話す」能力を試すためだけに民間試験を導入するとすれ

ば、むしろ得るものより失うものが多いでしょう。

最後に、東京大学が民間試験を導入しないことを再度検討していることについて大変嬉しく思います。入学試験を控えた時期、文科省から文系縮小の通達が発せられ、京都大学が公然と反発したのに対し、東京大学はそれほどの反応を見せなかった（少なくとも受験生であった私の目にはそのように映りました）。このことで、私は本当に東京大学に行くべきなのか迷い、結局周囲の目を気にして東京大学に入学した後も京都大学への未練を多少残していました。

　しかし、今回東京大学が慎重な姿勢を見せているのを知って、その未練は吹っ切れたように思います。
自分の入学した大学も、文科省の言いなりになることなく、矜持を持ってことにあたっていることが感じられたからです。
これからも、私は東京大学で学問を修めたのだと誇れる大学でありますように。　（下線、引用者）

私は大学の民間試験導入には反対です。現在高校生の母親であり、高校の英語教師でもあります。

すでに試行で私の住む県でも数校が実施をしましたが、ベネッセが用意した端末でのスピーキングテストは、周囲の生徒達の声が聞こえてくるため相当混乱をしてテストになるかどうか疑問だということが出てきています。端末から聞こえる音に反応して話すだけのことで、スピーキング力が測れるとは到底考えられません。

また、試験には高額の受験料もかかるため、新試験が導入されたら、現在センターで全ての教科を一度の支払いで済ませるのに、別途英語だけ支払いをしなければならなくなり、受験生にとって二重の負担です。お金のある家庭や、自治体はいいかもしれませんが、そうではない人達は大変です。教育格差が広がるのは素人の私でも分かります。
TOEIC や TOEFL、英検他はそれぞれ想定している受験生が異なり、大学受験に相応しいとは言えないものをベースに測るのは大変おかしな話で、学習指導要領は何のためにあるのか、文科省は子供達に対する責任を放棄をしているのかと思わざるを得ません。

外部試験の為の英語の授業にシフトされることは、公教育の破壊としかいえません。子供達は英語の勉強に明け暮れ、数学や科学分野、古典や文学、歴史など様々な知的好奇心を持つ生徒の学びに時間をかけられません。教育現場を破壊しかねないということを、どうして大人達が配慮してあげないのか怒りさえ覚えます。日本での教育はやはり日本語が一番大切であるのは、第１条件です。

英語力獲得には途方も無い時間と労力が必要です。どうして英語だけこのような特別な試験を行わねばならないのかが理解できません。

また、そのような不確かで危険な面を多く含んだ外部試験を東大が認めるなどということは、到底認められません。英語をそのまま日本語に置き換えて考えてみてください。英語力を計るテストすることに、日本語力をテストする以上にお金をかけ、本当の学びを潰してしまう国が他のどこにありますか？

日本の最高学府の東京大学が率先して導入すれば、他の大学もそのようにするでしょう。中高生の子供達の混乱は容易に推測出来るし、子供達のやる気を削ぐとは考えない無いのでしょうか。

私がとても憤りを感じているのは、東京大学が一度導入しないと発表したにもかかわら

ず、短期間で 180 度方向転換をして、言動を変えたことです。東大の公式発表が、軽々しいものであったことに非常に驚きと落胆、そして怒りを感じます。言葉を軽んじるにもほどがあります。一度放った言葉に責任を持たなすぎる人たちの多いこと。

大の大人、最高学府の東大の先生ですら簡単に言葉を考え、軽んじているのですから。言葉を軽んじていいことを示されているのでしょうか？ そうであれば、英語など出来ても意味はありません。英語試験で高得点をとっても、言葉を軽んじるのであれば日本の未来はありません。

阿部公彦先生をはじめ、この英語の外部試験導入に危険な面が孕んでいることに気づいておられる先生方、どうか導入に際して今一度ご検討されることを望みます。日本の未来がかかっています。日本の未来は先生方ではなく、今の十代、そしてこれから生まれてくるであろう、まだ発言することもできない人達です。どうか今一度ご検討ください。

通級教室指導員　木村　真智子
（北海道　38）

2020年度に始まる「大学入学共通テスト」で活用される英語の民間試験に、「従来型」の英検が落選した。一方で、東京大学は「公平性の担保に疑問がある」ことを理由に、合否判定に民間試験を使わない予定だという。

地方都市に住み、英語教育に携わる私は、東大の方針に賛同する。今回採用が決まった試験のひとつ、「TOEFL　iBT」の受験料は235米ﾄﾞﾙ（約2万5千円）。北海道の受験会場は札幌のみだ。札幌では月に複数回試験が実施されるため、札幌在住の裕福な家庭の子どもは、何度も「練習」することが可能である。

他方、私が教える釧路の生徒たちは、受験料に加え、札幌までの往復の交通費がかかる。約4時間半という

テスト所要時間を考えると、場合によっては宿泊費も必要だろう。当然何度も「練習」することは難しい。

　都市部に住む経済的に豊かな受験生が有利なことは明らかである。国が主導する試験において、こんな不公平なことがあって良いのか。

　比較的安価で、かつ地方でも受験できる「従来型」の英検が落選した今、地理的・経済的公平性に著しく欠ける民間英語試験の導入は中止すべきだ。
（下線、引用者）

民間試験の大学入試への導入は、公平性の観点から反対です。大学時代（数年前）に予備校の模試の英語の採点をしていましたが、

①英語として不正確な答案でも、正答と誤答の識別が困難であるため正答扱いにすることがありました。
②採点者による採点のブレや、採点基準の読み込み不足等による採点ミスは避けられないように思います。
（私が採点をしていた時も、「採点ミスが多発している」旨の注意が頻繁にありました。）

英語の民間試験を数十万単位の受験生が受けることになると、大なり小なり上記のような事態が起こるのではないか大変心配です。また、（答案のダブルチェック等）採点を

精密に行うと、受験料の値上げにつながるのではないでしょうか。

今のセンター試験は基本的に良問であり、あえて民間試験を導入する必要はないと考えます。（どうしてもスピーキング等の能力を測りたいなら、各大学が自前で行えば良いと思います。）　（下線は引用者）